

連合新潟第31回定期大会 牧野会長あいさつ（全文）

第31回定期大会にご参集の、大会構成員の皆さん、そして、傍聴者、報道関係の皆さん、大変ご苦労様です。

また、 花角新潟県知事

新潟労働局 岩瀬局長

新潟県労働金庫 村山常務理事

こくみん共済 COOP 小野塚本部長

お忙しい中ご臨席を賜りました、ご来賓の皆様に対しまして、参加者を代表し厚く御礼申し上げます。

ありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症と闘い続けて2年近くになりますが、第29回大会以降、新しい生活様式の中で、その対応に翻弄された期間でもありました。新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、多くの人たちが仕事や住まいを失い、雇用不安や様々な困難を抱えています。この危機を乗り越えていくには、脆弱な公的セーフティーネットを強化するとともに、働く仲間や地域の人たちが連帯し、「誰ひとり取り残さない」社会にしていくことが必要です。

今定期大会も新型コロナウイルス感染症の感染状況を注視しながら、時

間短縮と構成メンバーも縮小、大会終了後の交流懇親会も中止とし、開催する運びとなりましたことに、お詫びを申し上げますとともに、ご理解ご協力をいただきましたことに感謝を申し上げます。

さて、連合の運動は2年をスパンに展開しており、本日の第31回定期大会は、この間の運動を振り返り、向こう2年間の方針を審議・決定する大会であります。併せて、役員を選出する大会でもあります。

連合は、10月6日「第17回定期大会」を開催し、「安心社会へ新たなチャレンジ～すべての働く仲間とともに「必ずそばにいる存在」へ～」のスローガンを掲げました。

2019年秋、結成30周年を迎えた連合は、連合ビジョン「働くことを軸とする安心社会 ーまもる・つなぐ・創り出すー」を提起しました。これまで連合が運動の基軸としてきた価値観を継承・深化させ、2035年を展望した社会像を描き出しました。提起の背景には、この間、市場原理主義が世界を席卷してきた中、わが国における不安定雇用の拡大と中間層の収縮、貧困・格差の拡大がありました。

連合新潟は本大会で、

「命とくらしを守ること」をすべての基軸に、未来を切り拓こう！

顔の見える地域運動を発展させ、新たな組織拡大に繋げよう！

の二つのスローガンを示しました。

あいさつでは、「組織拡大」「政治課題」について触れたいと思います。

言うまでもなく、日常的活動が無いなかでは、組合員からは非常時・緊急の要請には応えてもらえません。引き続きそのことを念頭に置き運動をすすめる上で、「組織拡大」を何よりも優先させて取り組むことを最初に申し上げます。

これまでも「組織の拡大」・「運動への参加」・「地域活動を広げよう」を軸に運動をすすめてきました。22年23年の2年間は、本部の運動方針に合わせ3つの重点分野・4つの推進分野で具体的に運動をすすめていきます。喫緊の課題として「組織の拡大」は、本部方針である「連合組織拡大プラン2030」にもとづく、計画の実践をすすめます。今年の調査で組織人員は、昨年より2,819人減少の、102,070人でした。ウイルス禍での雇用状況なども大きく影響したと思われまます。継続中である「連合新潟16万人復元」に向け、4月から7月にかけて、各地域協議会の三役との意見交換会を行い、本部方針により12月1日からは、地方オルガナイザー

の配置も決まっています。引き続き構成組織と連合新潟・各地域協議会が一丸となって、組織拡大をすすめることを確認し合いたいと思います。

さて、第49回衆議院選挙も終盤戦を迎えております。この間も連合新潟推薦・支持候補の勝利にむけ、帆走されている構成組織・地域協議会の役員・組合員の皆さんに感謝を申し上げます。

第100代総理大臣となった岸田総理は、所信表明において国民との丁寧な対話を大切にするとしていましたが、国会での議論に背を向け総選挙に突入した姿勢は国民軽視と言わざるを得ません。

この選挙は、ウイルス禍という国家的危機を克服し、安心して持続可能な社会を展望することができるのか、「命と暮らしを守るニューノーマル」を実現できるのか、問われる重要な選挙です。多くの有権者が、現政権に対峙する、働く者・生活者の期待に応え得る選択肢の確立を望んでいます。左右の全体主義とは明確に一線を画した中で、一方の新自由主義路線とも異なる、良識ある多くの有権者の受け皿が求められていることは間違いありません。

自公政権は、ウイルス対策においても、あいまいで中途半端な政策判断をし、十分な説明責任を果たさず国民に深刻な政治不信を招きました。政治不信を払しょくし、民主主義を正しく機能させなけ

ればなりません。加えて、先行きが不確実なことによる社会不安や分断を防ぐため、政策決定プロセスの透明化など、国民に対する政治・行政の説明責任が求められています。ウイルス禍で露呈した数多くの社会課題を解決するためには、「働くことを軸とする安心社会」の実現が急務です。私たちは、一人ひとりの命とくらしを守りぬくことを基軸に連合と理念を共有する政治勢力を確立し、働く者・生活者の期待に応え得るもう一つの選択肢を国民に示さなければなりません。地道な取り組みを重ねてきた推薦・支持候補全員の勝利をつかみ取り、その流れを来年の知事選・新潟市長選・参議院選挙、2023年の統一地方選の勝利につなげていこうではありませんか。残り3日、最後の踏ん張りを重ねてお願いします。

以上、連合新潟の運動に関わりについて、あいさつで述べました。

いつの時代も労働運動は、より良い職場、より良い社会に向けた変革の原動力でなければなりません。だからこそ、労働運動や労働者福祉運動の原点に帰って運動を推進する必要があります。その先頭に立つ連合に結集する私たちには、「組織力」、「政策力」、「発信力」にいつそう磨きをかけ、すべての働く者のため、次の時代に連合運動をつないで行くことが求められています。そのためには、構成組

織、地域協議会はもとより、連合新潟、労働金庫、こくみん共済 coop など 14 の団体で構成する新潟県労働者福祉協議会（略称：新潟県労福協）が進める“社会運動”、そしてまた、私たちの生活を支える事業団体である労金、こくみん共済 coop をはじめとした労福協構成団体の様々な取り組みに対し、皆様のこれまで以上の連携・協力を要請するものです。

最後に、本日の大会をもって退任されます、

砂長副会長、五十嵐副会長、齋藤執行委員、菊地執行委員、渡辺執行委員、今津執行委員、小島会計監査

役員期間の長短はあれ、連合新潟の運動をともに推進し、協力をいただきましたことに感謝いたします。今後のご活躍を祈念いたします。

連合新潟に結集するすべての組合員の参加のもと、今後の運動にしっかりとつないでいけるよう、熱心な論議と、最後までのご協力をお願いし、あいさつとします。

ありがとうございました。